サマリアMCP・Agentで特許業務はどう変わるか

― 生成AIによる特許調査・拒絶対応のパラダイムシフトと実践知 ―

2026年11月20日 / Claude Fable 5.2 レポートに基づく戦略的ガイド



Gemini Notebook

Executive Summary: 知財専門家の役割の劇的な重心移動

AI導入前:
検索式作成に多大な時間を消費



AI導入後:
人間の仕事は『戦略的観点設計』と『最終妥当性の確認』へシフト

AIの回答が実データに裏付けられる

幻覚（ハルシネーション）を抑え、一次情報（公報原文）に基づく検証が可能に。

調査過程の可視化

「AIが調べた」ではなく、「どの式で何件だったか」のプロセスを人が再利用可能。

段取りのオーケストレーション

AIが自律的に「検索→取得→読解」の手順を組み立てる新体験。

Gemini Notebook

サマリアへの「3つの入口」と共通データ基盤の誕生



Gemini Notebook

Entrance 1: サマリア MCP（外部AIとの直結による探索）



コストゼロの対話

コーポレート/ビジネス契約者は追加費用なし。サマリアの「指示数」を一切消費しないため、試行錯誤の壁打ちに最適。

セキュリティ

AWS東京リージョン内で完結、データ非保持（ZDR）対応、参照機能のみで書き換え不可。

Gemini Notebook

Entrance 2: サマリア Agent (β)（自律型オーケストレーション）



※調査ツール起動時は指示数を消費
※回答の根拠は必ず原文で確認する専門家の判断が必須

Gemini Notebook

【診断】タスクに応じた3つのツールの最適活用マトリクス

	MCP	Agent	本体ツール
使う画面	外部AIアプリ	サマリア画面内	サマリア画面内
指示数の消費	消費しない（◎）	消費する（△）	消費する（△）
類語辞書	軽量版（約1万件）	未確認	フル版（10万件超）
事前設定	接続・社内承認要	不要	不要
得意な作業	探索、壁打ち、1件の深掘り、社内情報との掛け合わせ。	外部AI禁止環境での探索、Word/PPT等の成果物一発作成。	網羅的母集団の作成、大量スクリーニング、精密な拒絶解析。

Gemini Notebook

特許調査ワークフローにおける「人間とAIの境界線」の再定義



キーメッセージ: 調査の重心は『検索式を手書きする作業』から、『AIの調査経過（式と件数）を監査し、網羅性に責任を持つ作業』へ昇華した。

Gemini Notebook

拒絶理由通知対応の「3層アプローチ」



Layer 3: 定型で精密な1件の深掘り (拒絶支援ワークフロー)

- アクション: 認定の整理、特徴語の対比、一致・相違点の緻密な検討。
- メリット : 認定の誤りや阻害要因の精密な検証（専門家の最終判断）。

Layer 2: 提出書面のドラフトと自己点検 (エージェント機能)

- アクション : 応答方針コメント、意見書案、補正書案の作成。
- メリット: Word校閲記録付きで、確認できていない点をAIが明示。

Layer 1: 初動の論点整理と周辺情報収集 (サマリア MCP / Agent)

- アクション : 通知書添付 → 理由・請求項・引用段落の対応表作成。
- メリット: 読む前に疑う箇所を特定。包袋から審査官の傾向を瞬時に把握。

Gemini Notebook

ユーザーインサイト：圧倒的な満足度と導入の「リアルな壁」

価値の証明



総合満足度



推奨度

利用頻度:
17件中14件が「週数回以上」の高頻度利用

主な用途Top3:
1.先行技術調査
2.無効資料調査
3.技術トレンド把握

導入の壁

- ⚠ セキュリティ・情シス部門の承認 (7件)
- 接続後の指示の出し方（プロンプト） (6件)
- MCPの仕組み・接続手順 (5件)

Takeaway: ツールは極めて有用だが、組織展開には『セキュリティ承認の突破』と『標準プロンプトの共有』が鍵となる。

Gemini Notebook

Playbook 1: 特許調査プロセスを革新するユースケース

1 検索式の「品質診断」の定常化

狙い　：AIに条件ごとの単独ヒット数や0件の原因を算出させる。

進め方：検索履歴として報告書に添付し、妥当性を可視化。

2 「探索→網羅→査読」の三段運用

狙い　：探索の速さと網羅性を両立。

進め方：MCP/Agentで観点と語彙を固め、本体ツールへ引き継ぎ母集団を作成して査読。

3 開発者のセルフ調査と知財部レビュー

狙い　：発明の質向上と知財部門の監査。

進め方：開発者がAgentで類似公報を探し、知財部門が「調査経過」を見て観点の漏れを指摘。

4 新着公報・審査経過の定点観測

狙い　：SDIの自動要約。

進め方：MCPと外部自動化を連携し、検索結果の羅列から「読める要約レポート」へ自動変換。

Gemini Notebook

Playbook 2: FTO・無効資料・拒絶対応の高度化

権利状態を織り込んだFTO一次評価

狙い　：権利の存続と限定解釈を最初から把握。

進め方：リーガルステータスと包袋の主張履歴を自動取得し、対比表に列を追加。

審査経過を起点にした無効資料調査

狙い　：審査官が認めた相違点のみを狙い撃つ。

進め方：ターゲット特許の包袋から相違点構成を特定し、ピンポイントで検索。

応答検討の「三層分離」

狙い　：認識のズレの可視化。

進め方：文献の記載、審査官の判断、AIの解釈を3列に分けた対比表を強制出力させる。

出願前の「仮想拒絶」

狙い　：拒絶への防御を前倒し。

進め方：出願前のクレーム案をAIに読ませ、想定される指摘と備えるべき下位概念を提案させる。

Gemini Notebook

ベストプラクティス：「三段運用」の詳細解剖



【探索】サマリアMCP / Agent
(指示数消費 ゼロ～小)

自然言語での自由な壁打ち。
観点と語彙の抽出。※辞書は1万件の軽量版。

(指示数消費 中)

抽出した式を引き継ぎ、
フル版類語辞書（10万件超）と一括処理で厳密な母集団を作成。
「見つからない＝存在しない」の誤謬を回避。

高精度に絞り込まれた境界例を一次情報（公報原文）で最終判断。

※ MCPと本体を使い分けることで、指示数コストを抑えつつ網羅性の担保が可能になる。

Gemini Notebook

ガバナンス：セキュリティ承認を突破する「3つの盾」

Shield 1: アーキテクチャの安全性

OAuth認証、データ参照専用（書き換え不可）、AWS東京リージョン内で完結。

Shield 2: ZDR(Zero Data Retention)

MCP経由のクエリ内容はサマリア側に一切保持されない。

Shield 3: 弁理士法第75条対応

利用規約の改定、出力時の注意喚起表示の実装。



組織への宿題（アクションアイテム）

- 外部AIアプリ側の規約（入力データの学習利用可否）の確認が必要。
- 「未公開の自社発明」をどの入口に入力してよいか、社内規程の明文化が必須。

Gemini Notebook

投資対効果と競争優位性

コスト最適化戦略



2027年2月よりプラン・追加指示料金が
+20%改定（コーポレート年間36万円へ）。

Signal Orange

指示数消費ゼロの「MCP」へ探索タスクを寄せ、
指示数リソースを「Agent/本体の成果物生成・
網羅処理」に集中投下する設計が極めて経済的。

競合に対する圧倒的優位性



- カバー範囲の圧倒的広さ
  （包袋、経過、配列表、意匠・商標）
- 審査官認定ベースの類語辞書の内蔵
- 既存ライセンス内（追加費用なし）
  での提供
- 外部AI禁止企業向けの「Agent」という
  別ルートの完備

Gemini Notebook

結び：AI時代の知財専門家に求められる真の価値



特許庁もAI検索を導入する次世代。「検索式を書けること」の価値は下がり、『検索過程を説明できること』と『審査官の認定を原文で検証できること』にプロフェッショナルの価値が集約される。

- AIは高速に探索・実行する。
- 人間は「戦略（観点設計）」と「検証（原文照合・法的判断）」を担う。
- この分担をいち早く明文化し、組織の知識とした者が競争優位に立つ。

出典: 2026年11月20日 Claude Fable 5.2

Gemini Notebook